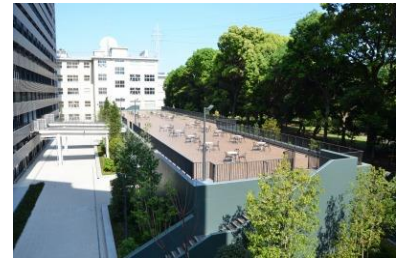


# FD NEWSLETTER



## CONTENTS

- 大学全体のFD活動と学生ファースト  
FD推進委員会委員長  
学長 長谷部 八朗
- 「講義動画配信への私見」  
グローバル・メディア・スタディーズ学部  
講師 石橋 直樹
- 平成31年度  
新規採用教員オリエンテーション
- 平成30年度活動報告
- FD推進委員会の今後の活動予定

## 大学全体のFD活動と学生ファースト

### 駒澤大学FD推進委員会委員長 学長 長谷部 八朗

本学におけるFD活動は、FD推進委員会・同小委員会を縦軸として、全学的に組織立てて行われている。FD活動の視点としては、学びの主体である「学生」の視点（学生による授業アンケート、ベスト・ティーチング賞等）、教育の主体である「教員」の視点（GPAをはじめとする成績評価の公正・公平性の維持、専門的学修力評価と並んでGPS-A等による基本的学修能力評価等）、「学習環境」という視点（ICTに関する技術的及びソフト的発展とそれらへの対応等）などが中核である。

各視点には、その実現手段としてPDCAという持続的サイクルが用いられる。駒澤大学が育成目標とする「学生像」、及び、駒澤大学で教育を担当する「教員像」を明確化した上で、目標P・実施D・検証C・改善Aが持続的に行われるシステムの構築と運用を、大学全体・学部等・教員個人という各階層的レベルで実践する。その成果は、公開し社会的評価を受けるために、「透明性」すなわち「可視化（見える化）」されていなければならない。それが、高校生、高校教員、企業、同窓生、社会に対して責任を果たすことであり、自己評価・外部評価のためのエビデンスになると思量する。そうした認識に立ち、駒澤大学としての教育プロセスを明示化するために、アドミッション・ポリシー（AP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、ディプロマ・ポリシー（DP）を定め、具体的展開を図ってきた。

上述のようにFD活動全体を鳥瞰した上で、私は、本学の刻んできた「伝統」とその「刷新」を常に意識し、学長就任以来提唱してきた有為な人材育成を目指す「学生ファースト」の方針を、さらに血肉化したいと考えている。少子化時代に突入し、未来社会を担う世代に向けられた、グローバル化対応能力、地域・社会貢献活動、主体的問題発見・解決能力などの修得への期待は、ますます募ってきている。

立派な身体（大学）を作り上げるには、体内を流れる血潮の円滑な循環が必要不可欠である。それは各組織を活かす「こころ」と「つながり」ともいえる。関係各位のご理解とご協力の下、本学のFD活動のさらなる活性化を図り、大学運営の主翼の一つである教学体制の充実を期したいと考えている。

## 連載企画：よりよい教育のために

## 「講義動画配信への私見」

グローバル・メディア・スタディーズ学部講師

石橋 直樹

GMS 学部には、「グローバル・メディア・スタディーズ概論」という講義がある。これは、主に一年生を対象とした必修科目で、毎週専任の教員が登壇するオムニバス形式で実施され、学部の全容の理解を促し、四年生までの学びをイメージさせ、ゼミ選択のきっかけとすることを目的としている。

震災の年、講義開始が遅れた関係で、私の講義を「課題講義としてほしい」という要請があった。しかし、前述の目的から、講義をしないわけにいかず、急遽手持ちの Mac を使って簡易的に動画作成を行った。具体的には、Mac の前に座りパワーポイントを使って一人で講義を行う。このとき、1) Mac の画面収録、2) Mac の内蔵カメラから話す様子を撮影、3) 音声録音を同時に行い、これらを簡易的に混ぜた。当時画面収録は Mac でできなかつたため、ここだけソフトを購入し、あとは講義時間と 10 分程度の編集時間がコストという、非常に安価な映像コンテンツで、基本的にパワーポイントの映像の右上に小さく私の顔が載っているという、簡易コンテンツでもあった。

視聴した学生に感想を聞くと、予想以上に高評価であった。理由として、「難しい箇所を複数回見ることができた」「全体を 2 回見ることによって理解が深められた」「自分が集中できる時間に視聴できた」などが挙げられた。「高度な撮影・編集を施さなくても、講義の簡易な動画コンテンツを作ることができれば、学生の学びに大きな助けになるのではないかと直感したささやかな実験だった。

近年、大学に講義収録設備を入れる大学が増えている。これらは主に、通信教育や Online Degree、MOOCs への対応を目的としていると考えられる。しかし、自動的に簡易収録した講義を自動的に配信する環境を作ることができれば、在校生にとって理解を深める教材、また、就職活動や傷病で登校できない学生への教材となり得る。また、教場不足への対

応として用いることも可能であり、将来的な外部へのサービス提供といった可能性も広がる。

もちろん、FD の主な目的は講義の恒常的な改善であり、このため従来から行っている授業アンケートや研修会など、教員の技量や知識の向上、講義の質的向上は重要である。しかし、単純な技術の適用により、学習の質を向上できる可能性は高い。動画配信を実現する技術やインフラが多様かつ安価になっている現在こそ、本学の時代に先んじた教育環境の実現を願ってやまない。

## 平成 31 年度 新規採用教員オリエンテーション

本年度も 4 月 1 日に今年度より新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員 17 名、非常勤教員 52 名の計 69 名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では長谷部八朗学長より本学の建学の理念について、日笠完治教育・研究担当副学長より本学の教育方針について、猿山義広学生支援担当副学長より本学の学生支援について、中野達哉教務部長より本学の F D 活動等について説明をいたしました。事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet (コマネット)」、「ユーザー I D」、「YeStudy (e-learning) 等の利用について」)、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に係る説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室および A V 教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から公的研究費、教員教育研究費等に関する説明を行いました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

## 1. 開催日時

平成 31 年 4 月 1 日 (月) 13 : 00 ~ 15 : 40

## 2. 出席者数

69 名 (案内状発送 130 名)

## 3. オリエンテーション次第

- ・学長挨拶
- ・副学長挨拶
- ・教務部長挨拶

- ・大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）終了後、希望者を講師控室、AV教場に案内した。



（オリエンテーションの様子）

## 平成 30 年度FD推進委員会及び小委員会の活動報告

平成 30 年

4 月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催
- ・第 1 回FD推進委員会及び小委員会を開催

5 月

- ・平成 30 年度第 1 回FD研修会を実施
- ・平成 30 年度第 2 回FD研修会を実施

6 月

- ・第 2 回FD推進委員会小委員会を開催
- ・2018 年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施

- ・FD NEWSLETTER 第 55 号を発行

7 月

- ・第 3 回FD推進委員会小委員会を開催
- ・平成 30 年度第 3 回FD研修会を実施

9 月

- ・FD NEWSLETTER 第 56 号を発行

10 月

- ・第 4 回FD推進委員会小委員会を開催

11 月

- ・第 2 回FD推進委員会を開催
- ・2018 年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施

- ・平成 30 年度第 4 回FD研修会を実施
- ・平成 30 年度公開授業の実施（12 月 12 日まで）

12 月

- ・第 5 回FD推進委員会小委員会を開催
  - ・平成 30 年度第 5 回FD研修会を実施
  - ・第 3 回FD推進委員会（臨時）を開催
  - ・平成 30 年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」授賞式を開催
  - ・FD NEWSLETTER 第 57 号を発行
- 平成 31 年

1 月

- ・第 6 回FD推進委員会小委員会を開催

2 月

- ・平成 30 年度第 6 回FD研修会を実施
- ・第 7 回FD推進委員会小委員会を開催

3 月

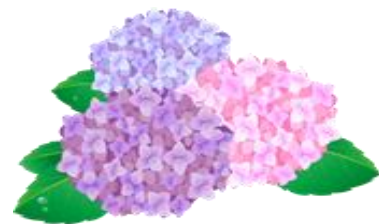
- ・第 4 回FD推進委員会を開催
- ・FD NEWSLETTER 第 58 号を発行
- ・平成 30 年度『FD活動報告書』を発行

## FD推進委員会の今後の活動予定

- 令和元年度第 3 回FD推進委員会小委員会  
令和元年 7 月 24 日（水）16：20 ～

- 令和元年度第 1 回FD研修会  
令和元年 7 月 29 日（月）16：00 ～  
※詳細については、後日、ご案内します。

※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。



～2019 年度「学生による授業アンケート」  
(後期) 実施のお知らせ～

実施期間：11 月 4 日 (月) ～23 日 (土)  
対象科目：全科目対象 (集中講義科目、演習科目、  
受講生が 10 名未満の科目は除く)  
※WEB によるアンケートを実施しています (PC、  
スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用  
して回答されます)。

2019 年度「学生による授業アンケート」(前期)  
を、6 月 3 日 (月) ～22 日 (土) に実施しました。  
学生は自身が回答した科目のアンケート集計結果を、  
6 月 24 日 (月) ～7 月 7 日 (日) にWEB 上で確認  
することができます。また、教員によるフィードバ  
ックも、WEB 上で行うことができます。



編集後記

2019 年度最初の『FD NEWSLETTER』(第 59 号) を  
お届けいたします。

長谷部八朗学長に巻頭言を賜りました。そこでは  
FD 活動の視点として「学生」「教員」「学習環境」  
の視点と、その実現手段としての PDCA サイクルの重  
要性、それを踏まえたうえでの、有為な人材育成を  
目指す「学生ファースト」の考え方をご提示いた  
だきました。ご多忙の中、ご執筆いただきありが  
とうございます。

連載企画「よりよい教育のために」につつま  
しては、GMS 学部石橋直樹講師にご自身で実践  
されている授業改善方法、なかでも講義の動画  
配信の方法についてご寄稿賜りました。ここ  
ろよりお礼申し上げます。

また新規採用教員オリエンテーション等、FD 活  
動の報告と今後の活動予定について掲載して  
おります。

本年度の FD 活動計画では、活動テーマと  
して、次の 2 つを掲げています。

- ① 本学における FD 活動の意義や目指すべき  
方向性を確認し、次年度以降の発展につな  
げる。
- ② 既存の取り組みについて検証・改善し  
ながら着実に実施していく。

本年度はこれらの活動テーマのもと、これ  
までの FD 活動を見直ししながら、様々  
な FD 活動を実施してまいります。ご  
参加とご協力のほど、よろしくお願い  
いたします。

(村松幹二・大澤邦由)

駒澤大学FD憲章

- 一、 私たちは、常に新しい教育方法を模  
索し、教育活動の質の向上に努めます。
- 一、 私たちは、常に自らの教育方法を  
ふりかえることで、教育活動の改善に  
努めます。
- 一、 私たちは、常に教員相互の情報交  
換をすることで、大学全体の教育の質  
の向上に努めます。
- 一、 私たちは、常に学生、または社会  
からの声を大切に、教育活動の改善に  
努めます。
- 一、 私たちは、知を人類の資産として  
未来へ継承し発展させるよう、学生と  
ともに歩むことを誓います。

【タイトル横の写真は

駒澤大学開校 130 周年記念棟「緑の丘」】

FD NEWSLETTER Jun. 2019 第 59 号

発行日：2019 年 6 月 30 日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)